



特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア協会

# 2019 年度 年次大会開催のご案内

日本ホスピス緩和ケア協会では、2019 年度の年次大会を下記要項にて開催いたします。  
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

1. 開催日 2019 年 7 月 13 日 (土) 大会 13:30~17:30 (受付 12:30~)  
懇親会 18:00~20:00  
14 日 (日) 分科会 9:00~12:00  
特別企画 13:00~16:00

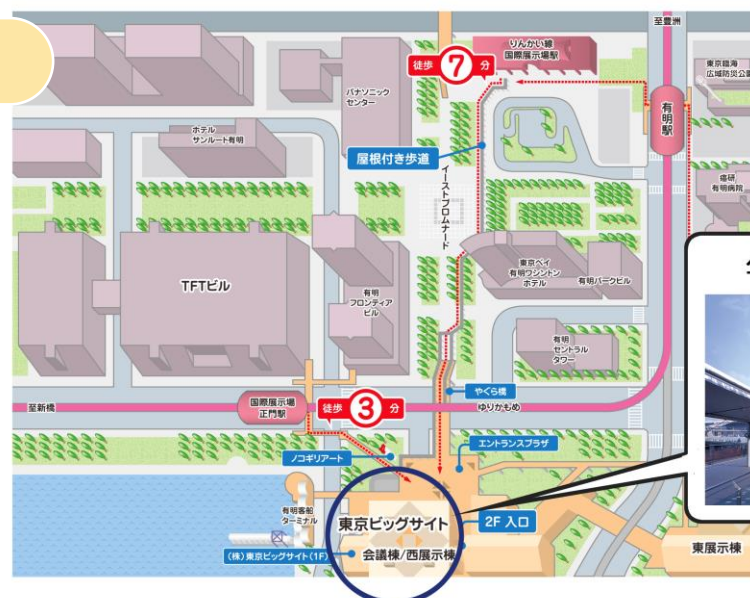
2. 会場 東京ビッグサイト会議棟 7 階国際会議場・6 階会議室  
〒135-0063 東京都江東区有明 3-11-1  
TEL 03-5530-1111 (代表) Website <http://www.bigsight.jp/>

### 3. 参加費

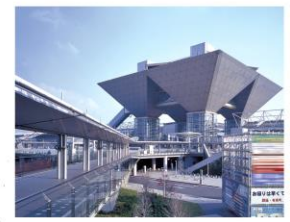
【年次大会】	【懇親会】	【特別企画】		
		緩和ケア病棟運営 管理者セミナー	MSWセミナー	SPACE-N フォロー アップ研修会
5,000 円	5,000 円	1,000 円	1,000 円	1,000 円

4. 申込み方法 5 ページの「参加登録の流れ」を参考に、お申し込み下さい。

### 会場案内



### 年次大会会場



- りんかい線 「国際展示場駅」から徒歩7分
- ゆりかもめ 「国際展示場正門駅」から徒歩3分
- 駐車場完備 (1 日最大 2,000 円)

- 都営バス 東京駅八重洲口(豊洲駅経由)  
→東京ビッグサイト下車
- 空港バス 羽田空港→東京ビッグサイト下車  
成田空港→東京ベイ有明ワシントンホテル  
下車徒歩3分

## プログラム

### 1日目 7月13日(土)

#### 13:30~14:15 総会

2017年度活動報告・決算、2018年度活動計画・予算について 等

#### 14:30~17:30 シンポジウム

テーマ「緩和ケア病棟の役割の変化と在宅・施設との連携」

【シンポジスト】

- ・池永 昌之 淀川キリスト教病院 緩和医療内科部長
  - ・相河 明規 ケアタウン小平クリニック 医師
  - ・松本 京子 NPO 法人神戸なごみの家 理事長
  - ・足立 誠司 鳥取市立病院 地域医療総合支援センター センター長  
鳥取市福祉部 参与
  - ・橘 直子 総合病院 山口赤十字病院 医療社会事業係長
- 座長：志真 泰夫 日本ホスピス緩和ケア協会 理事長  
田村 恵子 日本ホスピス緩和ケア協会 副理事長

#### 18:00~20:00 懇親会

### 2日目 7月14日(日)

#### 9:00~12:00 分科会

1

“緩和ケア病棟の役割の変化と在宅・施設との連携”を掘り下げる

担当：医療・介護保険委員会

2018年4月の診療報酬改定で緩和ケア病棟入院料区分が1. 2. に分けられ、緩和ケア病棟のこれからの役割が保険上で明確に求められる時期に来ています。この事はただ単に緩和ケア病棟の在り方を考えてゆくだけの問題ではなく、患者・ご家族様が住み慣れた街で安心して暮らせる地域の在り方として、連携の中で地域緩和ケアを考える上での病棟の役割が問われているものと思っています。志真理事長は、『2019年度はターニングポイントの年』と位置付け、年次大会総会後のシンポジウムのテーマを“緩和ケア病棟の役割の変化と在宅・施設との連携”としています。当分科会ではシンポジウムを受けて『“緩和ケア病棟の役割の変化と在宅・施設との連携”を掘り下げる』と致しました。グループワークを中心に皆さんとこれからの地域緩和ケアの在り方を議論したいと思えます。病棟スタッフだけでなく幅広い参加をお願いいたします。

## 2 IPOS (Integrated Palliative care Outcome Scale) 日本語版を用いた緩和ケアの質の維持・向上

担当：緩和ケアデータベース委員会／質のマネジメント委員会

IPOS(Integrated Palliative care Outcome Scale)とは、STAS(Support Team Assessment Schedule)の後継版となるホスピス・緩和ケアの評価尺度で、世界中で最も広く使用されているツールの1つです。STAS-Jが医療者による評価方法であったのに対し、IPOSは基本的に患者さん自身による自己評価(患者版)と医療者による評価(スタッフ版)が用意されていることが特徴です。いままで正式な日本語版はありませんでしたが、2019年にIPOS日本語版の信頼性・妥当性を検討した論文が出版され、現在、普及活動が開始されました。

この分科会では最初にIPOS日本語版の使い方や英国のホスピスで行われているIPOSを用いた質改善活動、IPOSに似たツールを用いたオーストラリアの取り組みなどについてご紹介します。そして、わが国のホスピス緩和ケアの臨床でこのようなツールをどのように活用したらケアの質の維持・向上に役立てることができるか、参加者のみなさまと一緒に考えたいと思います。

この分科会はいくまで日常的な臨床ツールを用いてホスピス緩和ケアの質を維持・向上することを目指しており、実際に用いられるツールはIPOSである必要はございません。みなさまの中で臨床で何かしらのツールを用いたことがある方々からは、ぜひそのご経験を共有し合い、そして今後のあり方についてディスカッションできればと思っています。

## 3 緩和ケア病棟における退院支援にかかわるジレンマを解決するには ～ 多職種チームアプローチの視点から考える ～

担当：多職種教育支援委員会

平成30年度診療報酬改定では緩和ケア病棟入院料が2つに分かれ、平均在院期間、平均待機期間、自宅復帰率がその指標となりました。「終の棲家」としての緩和ケア病棟からの変化を余儀なくされ、退院支援を仕方なく行っていると感じているのでしょうか。それとも、苦痛を緩和するための病棟だから、症状緩和がある程度達成されたら退院して他の苦痛のある患者のためにベッドを空けるべきとお考えでしょうか。患者家族の意思決定を支えていくことと、病棟運営での狭間でジレンマを抱えているスタッフは多いのではないかと思います。退院支援にかかわるジレンマを解決するために、緩和ケア病棟ならではの多職種チームアプローチの視点から考えてみたいと思います。

## 4 専門的緩和ケアを担う看護師に求められるコンピテンシーを考える

担当：看護師教育支援委員会

専門的緩和ケアを担う看護師にはどのようなコンピテンシーが求められているのでしょうか？コンピテンシーとは、知識、技術、態度を意味し、個人の価値観などの資質を含める場合もあります。分科会では、はじめに、緩和ケア分野におけるコンピテンシーに関する知見について概観します。さらに、近年は緩和ケア病棟の入院期間の短縮化などの現状があり、看護師に求められるコンピテンシーも多様化しています。そこで、「限られた期間で患者・家族と信頼関係を構築するための実践例」を3名のエキスパートの方にお話し頂き、グループワークで各自の実践や協働するメンバーとともにどのようにケアを実践していけるかなど、明日の臨床に活かせるようコンピテンシーの理解を深めていきたいと思っています。

なお、当委員会で行っている専門的緩和ケアを担う看護師の看護指針開発の取り組みについてもご報告する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。



## 5 これからの緩和ケア外来を考えるー緩和ケア外来に何が必要かー

担当：緩和ケア専門外来ワーキンググループ

緩和ケア専門外来の分科会では、緩和ケア専門外来を開設・運営し、質を向上させるうえでの問題点や課題を参加者の皆さんと共に明らかにし、あるべき姿について考えていきます。

昨年度は、緩和ケア専門外来に関するアンケート調査結果をもとにグループワークを行いました。緩和ケア専門外来の基準作りの参考にするために、①緩和ケア専門外来に必要なこと、②担当するスタッフや外来の頻度など必要な体制、③がん治療中の患者さんを緩和ケア専門外来で支える上で問題点などについて話し合っていました。その中で、現状では緩和ケア外来が実に多様で、それぞれの課題がある中で取り組んでいる姿が浮き彫りになりました。

厚労省主催の「第1回がんと共生のあり方に関する検討会」で、緩和ケア外来のあり方についても議論されるなど、緩和ケア外来について社会的関心が徐々に高まっています。そのような中、緩和ケア外来を実践している、もしくは実践しようとしている立場から提言することはとても重要だと考えます。皆さんからの声を集約し、提言に結び付けたいと思います。一人でも多くの皆さんのお声をお聞かせください。

## 6 在宅緩和ケア専門委員会の設立と今後の方向性について

担当：矢津 剛（矢津内科消化器科クリニック 理事長・院長）  
前野 宏（医療法人徳洲会 札幌南徳洲会病院 総長）

昨年当協会において在宅緩和ケアの基準がまとめられ、今後在宅緩和ケア充実診療所をふくむ在宅療養支援診療所や一般診療所の在宅緩和ケアの質の担保や地域連携スキルの向上が求められています。日本ホスピス緩和ケア協会におきましても、在宅緩和ケアに携わる診療所の加盟を促し地域緩和ケアの発展を模索するために、在宅緩和ケア専門委員会を設立する予定となっております。

分科会では3月に集計いたしましたアンケートを参考に今後の方向性について会員の皆様と議論していきたいと思っております。診療所に限らず病院医師・看護師・MSW、訪問看護師、ケアマネージャーなど多数の皆様の参加をお待ちしております。

## 13:00～16:00 特別企画 ※対象の会員には別紙案内を同封しています

### 緩和ケア病棟運営管理者セミナー 13:00～16:00

テーマ：緩和ケア病棟における働き方改革ー時間外勤務に対する対策と質の確保ー

対象：正会員 ホスピス・緩和ケア病棟の医長および看護師長

※参加人数は、各職種 1名までです

### MSWセミナー 13:00～16:00

テーマ：診療報酬の改定が患者・家族に与える影響～ソーシャルワークの視点から～

対象：ホスピス・緩和ケア領域に従事するソーシャルワーカー

※ソーシャルワーカーとして臨床をしている方（限定）

### SPACE-N 修了者フォローアップ研修会 13:15～16:00

対象：SPACE-N 修了者 50名

専門的緩和ケア看護師教育プログラム（SPACE-N プログラム）を修了しており、本協会の正会員・準会員施設に所属している方、または個人準会員の方。

## 参加登録の流れ

### 参加申し込みについて

2通りの方法がございます。いずれかの方法でお申し込み下さい。

#### ①Eメールでのお申し込み

協会ウェブサイトの「会員専用」を開き、「2019年度大会」をクリックして該当会員区分の申込書(Excel)をダウンロードし、必要事項にご入力の上、[info@hpcj.org](mailto:info@hpcj.org) までメール添付でお申し込み下さい。



#### ②FAXでのお申し込み:

同封の申込書に必要事項をご記入の上、協会事務局(0465-81-5521)へお申し込み下さい。



### 申込み締め切り **2019年5月27日(月)**

- 【**総会**】正会員施設は議決権を行使される方(1名)のお名前を最上段にご記入下さい。なお、総会は、正会員施設の代表者(議決権者)を主な対象とする会ですが、同施設関係者、その他の会員区分の方も参加可能です。
- 【**分科会**】分科会の受付は**先着順となります**。ご希望の分科会が定員となった場合は、第2希望の分科会に振り分けさせていただきますので、必ず第2希望までご記入の上、お申し込み下さい。
- 【**緩和ケア病棟 運営管理者セミナー・MSWセミナー・SPACE-N 修了者フォローアップ研修会**】対象施設には、開催のお知らせを同封しておりますのでご参照下さい。年次大会参加費とは別に、それぞれ参加費が1,000円かかります。お弁当のご用意はありませんので、昼食は建物内、また近隣の飲食店やコンビニエンスストアをご利用下さい。
- 【**宿泊**】協会としてのご案内はありません。各自でお手配下さい。

※会場の収容人数の都合上、お申込み人数が多い施設につきましては、人数調整をお願いする場合があります。

### 参加費のお振込について

同封の郵便振込票にて通信欄に人数を記載の上、参加費をお振り込み下さい。

**参加費振り込み受付期間: 5月1日(水)～5月27日(月)まで**

一度お振込みいただいた参加費・懇親会費は、ご返金できませんのでご了承下さい。

## 参加登録証について

事前に参加登録され、参加費を5月27日（月）までにお振り込みいただいた会員には、6月5日以降、下記のように対応いたします。

**【施設会員の方】** 同一施設から申し込みのあった方全員の参加登録証をまとめて、申込書記入者宛に郵送いたします。当日は、参加登録証のご提示にて名札と資料をお渡しいたします。

**【個人会員の方】** 協会にご登録いただいている住所宛に、参加登録証を郵送いたします。当日は参加登録証のご提示にて名札と資料をお渡しいたします。

※6月21日（金）までに参加登録証が代表者に届かない場合、また届いた参加登録証のお名前に誤りがある場合は、至急事務局までご連絡下さい。

※参加登録証は、大会当日必ずご持参下さい。

## 委任状について（総会を欠席する正会員のみ）

総会に代表者が出席できない正会員は、議長または他の正会員から総会に出席する議決権者を代理人として、表決を委任することができます。

同封の委任状に必要事項を記入し署名捺印のうえ、5月27日（月）までに協会事務局へご返送くださいますようお願い申し上げます。

●問い合わせ先● 特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア協会事務局  
〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口 1000-1  
ピースハウスホスピス教育研究所内  
TEL：0465-80-1381 / FAX：0465-80-1382  
E-Mail：info@hpcj.org / Website：https://www.hpcj.org/

【ご連絡いただいた個人情報は年次大会に関わることにのみ使用し、他の目的では使用致しません。】